

吉田町地域自主組織連絡協議会と市長との意見交換会

【日時】

令和5年8月21日（月）10:00～11:30

【場所】

吉田健康福祉センター

【参加者数】

9人

■意見交換会

主題「山間地域の存続について考える」

副題「鳥獣害対策・定住促進・山間地区の存続を考える会等について」

ご意見) 草刈りや田植え等も営農組合に依頼しどうにか維持している。環境を守るための農業だと思っている。将来的に高齢化が進むと維持がむずかしい。現在は委託先が見つからない。心配しているが解決策が見つからず地域の悩みである。何とか環境を守ろうと草刈りは続けているが、近い将来どのような状況になるか心配。

市長) 最終的には法人をいかに大きな組織としていくかということだと思う。

国では食糧安全保障の議論が続いている。いかに農村を守っていくか課題。知事へ地域を守るための農業について要望している。今年度、中山間地域等直接支払制度の広域加算が減額された。国からは地方の声を上げてほしいと言われている。食料生産には人材が必要。農村への定住を訴えていきたい。

ご意見) 中山間地域等直接支払制度について。広域連携加算が今年に入って3割カットされた。心配なのは直接支払交付金制度自体が縮小されるのではないかとということ。市長から国へ訴えてほしい

市長) 財務省はこの制度はばらまきだと厳しい姿勢を持っている。長年制度が続いていく中で当たり前になってしまい、全国で体制が弱くなったのではないかと。全国では加入団体が少なくなっている。国に対して制度の重要性を訴えていかないといけない。

ご意見) 直接支払制度については画期的な制度だと思っている。水の保全機能、畦畔等環境整備に利用されてきたが十数年の間にだんだん慣れてしまった。
子育て環境の充実が一番大切である。子育てしたいという環境をどうつくるか。小中学校は義務教育で市の所管だが、高校は県立。魅力化の中で保育園・幼稚園から高校までつながる充実した環境が必要。吉田交流センターで子どもの居場所づくりをやっているが、ボランティアの確保が難しい。人材確保のために市職員に地域への意識を持ってもらいたい。採用から退職後も関わってもらえるような研修システムを望む。市民への啓発も必要。高齢者が施設に安心して入れるよう介護サービスの充実も必要である。

市長) 子育て環境の充実、小中校の連携も重要だと思っている。高校はコンソーシアムで地域の人

に入ってもらい検討している。県立のため思いがストレートに伝わらないところがあるが継続的に取り組むことで一旦雲南市から出て帰ってくるような人の流れを作りたい。

地域の人材について市職員に来月からフレックスタイム制度を取り入れたい。スポ少の指導やボランティアでの子育てサポート活動など、仕事だけでなく地域活動に参加できるよう制度を始め職員の利用を期待している。

介護予防は重要である。一方で介護職員の確保は難しいが、需要増が確実に見込まれる。多機能にあれもこれも一緒にやっていくような人材を確保したい。

ご意見) 民谷は山間地域であり5年・10年先の状況が読めないような状態。農林畜産業だけでは生活できず仕事先がないと住めない。神原企業団地の進出企業は現在1社だけで市内企業とのこと。松江や出雲へ通勤圏内の地域は若い人も残っているが、民谷のような山間地は市内の加茂でも通うのが難しい。対策をしないと集落はなくなる。高速道路もできたがスポイト現象で人口は減るばかり。インターチェンジを利用し職場を作るなど対策を行って欲しい。市総合計画の見直し段階とのことだが山間地域をどのように考え対応策を講じるかとても重要である。地域の若者の数が限界状態。高齢者だけの集落がどんどん増えていく。喫緊の課題として検討頂きたい。

市長) 周辺地域の人口対策は非常に難しい。神原企業団地は工場を建てても人が集まらない現状がある。神原企業団地1社、南加茂企業団地2社入ってきた。最近インターネットを利用した在宅勤務、月に1・2回勤務など出勤しなくても働けることがコロナ禍で証明された。都会で暮らしにくいと思っている人が山間地域へ移住している。暮らしやすさと豊かさを前面に出した対策が必要と思っている。

農林畜産業にも可能性はあると思っている。知夫村は人口が増えている。畜産をやりに若い人が入り宿泊業などに就いている。ある程度の人口減少はやむを得ないが、チャンスを生むと思っている。放棄された田畑を放牧に利用したり、山を集団化して林業を行うなど。周辺地域を維持できなければ中心部も維持できない。雲南市がだめなら島根県。島根県がだめなら日本が維持できなくなる。地道に取り組んでいく。

ご意見) 以前から民谷近辺に職場の誘致をとお願いしているが、現実には事業所があっても人が集まらない。10年前から考えると人口が減っている。今、地域住民は54、5人、小学生中学生各1人であり人がいないと地域の存続は難しい。IターンやUターンで人が入ってもらえるのか不安。「環境がいいから住んで」という時期は過ぎている。豪雪地帯でもあり子どもは帰ってこない。

現在全国的にナラ枯れ広がっている。60年前までは炭焼きをしていたが、不用となり使っていない。60年の樹齢の木は虫がつく。30年くらいの木なら枯れない。当地でも何年も前からナラ枯れが発生している。枯れた木を炭にしたりしている。針葉樹・広葉樹いろんな種類の樹木があり「クロモジ」などもある。冬季間は炭焼きなどで生計を立てていた。いまバイオマスでしか使っていないが、付加価値をつけ木を搬出し生活ができるよう、収入が安定するようになれば、自信をもって地元へ帰って来いと言える。山の木で収入を得られるような仕組みを考えて頂けないか。

炭焼きについてやりたい人が居れば支援する方法はある。やる気のある従事者が必要。冬は地域づくり協働組合から人を派遣、森林組合と協働などが考えられる。人材の紹介をお願いしたい。

ご意見) 道路上の樹木伐採について、県道はやっているが農道や林道はやってない。樹木が生い茂っていると他地域から来た方は不安を感じられるので農林道の陰切りをお願いしたい。

市 長) 随時対応しているが、市でやる場合刈れる範囲が決まっており、民地に生えている木は切れない。地元の方と協力すれば根元から切れる。三刀屋町明石公園に通ずる市道の伐採時は地元の方と一緒にやりきれいになった。雲南市ならではの管理方法を研究したい。

ご意見) 猿による被害が多い。狩猟免許の補助があるが、どれくらいの方が補助を受け、免許を持っているのか。吉田町深野では0人。依頼するといつでも出動してもらえる体制を作してほしい。

市 長) 雲南市での免許取得者数は伸びている。昨年も相当増えた。森林組合・林業関係者が取得しているが、銃の免許は非常に難しく所持の要件も厳しい。銃を撃つ方はそれほど増えておらず、わな免許所有者は増えている。美郷町は住民が狩猟免許を取りわなは地域で仕掛けている。そうしたやり方は参考になる。雲南市の地域おこし協力隊の1人は鳥獣対策の専門としてやっている。地域ごとに猿・猪など課題が違うので地域ごとに対策を考えていく必要がある。地域おこし協力隊に頑張ってもらい取り組みたい。

ご意見) 田井地区では狩猟免許持っている人は0人。声掛けをしているが取得にはいたらない。市から配置してもらうような体制をとってもらえないか。知り合いに頼めば来てはもらえるが、タイミングが合わないこともある。

市 長) 狩猟免許を持っている職員もいる。箱わなの場合は「止め刺し」を電気で行う。職員でできる者もいる。体制を組むには猟友会との調整も必要となる。木次のジビエ業者さんが、猟友会と協力して引き取りをしているが、止め方により肉の品質が悪くなる。止めるところに業者も同席する仕組みが動き始めている。課題解決の糸口になるのではないかと考える。

ご意見) 定住促進について。空き家バンクに登録されている物件についてIターン者に聞いたが、いい物件はあるが全て購入のため賃貸があればハードルが下がるという話があった。購入の物件が多いのか。

市 長) 購入物件が多い。管理ができないので空き家バンクに出ている。賃貸だと修繕等の責任が貸主に及ぶ。負担が大きいため購入物件が多い。現在のところその点については難しいと思う。UIターンを考える際に一番重要なのは住宅政策。地域の方と共に取り組まないと動かないと考える。

ご意見) 集落営農をやっているが将来を見据えると新たな仕組みが必要。農業の場合、繁忙期とそうでない時の差が激しい。吉田で合同会社をやりかけているが経営が成り立たない。冬の収入源確保。農業公社のようなところで人的支援の調整をしてもらえるとよい。地域だけでは無理である。

ではないか。冬は炭、夏は法人など一つの解決策だと思う。冬の仕事は食品製造業とのコラボの可能性もあるように感じている。

ご意見) 空き家バンクに登録されないと朽ちてしまう家屋が散見される。解体に公的な支援がないか。家処分の公的支援があると空き家対策は進むのではないか。非常に古い家屋が残っており動物が荒らしている状態を憂いている。

市 長) 空き家の活用と危険空き家除去の問題がある。基本は個人の財産なので制度は県・国にもない。ただ空き家法の改正があり、特定空き家、道路に隣接する町の中の建物に対して手続きを踏んでいくと、補助がある制度ができた。一定の要件を満たす必要があり原則は自分で処分してもらうこと。相続放棄された場合に市が対処する制度についてもまだまだ制限があり、制度が煮詰まるには時間がかかる。道路に面していないものには使えない。

ご意見) 相続放棄が手っ取り早いので、中山間の資産はみなそうになってしまうのではないかと心配している。子どもたちが都会に出てしまっていると荒れる墓・山・田畑ばかりになる。地域とのつながりが切れ管理の意思がなくなっているところもある。

市 長) 昨年、山林に関しては一定の管理費を払えば国に返すことができる制度ができた。管理費も高くハードルが高い制度。石川県には寄付を受けて全て買い必要なところへ売っている制度もある。いかに財産を活用に向け集めて必要とする人へ渡すか。相続放棄という話もあったが、これは全ての財産を放棄することになるので実際難しい。財産管理人を定めない相続放棄を認めるのかどうか意見を述べていく。

ご意見) 山の中の一軒家は朽ちるのを待つばかりだが発想を変え、人が住むのではなく牛を飼い、きのこの栽培をするなどかつての住宅地を人が住まなくても活用ができるようにしてはどうか。きのこの中で高いのは「きくらげ」であり屋敷が朽ちる前に手を加え工夫して使ってもらえないか。

市 長) 家が傷む前に次の方へつなぐこと非常に必要。改修の制度を揃えている。家を出られるときに意思の確認ができず不在となるケースが多い。所有したまま結局帰ってこないこともある。地元にいる間に対応できるかがカギになってくる。仏壇をどうするかなど整えば制度を用意している。

提案であるが牛を飼い循環型の農業、化学肥料ではなく堆肥を使用する。牛を海外に販売するには何を食べているか明示しないといけない。化学飼料では売れない。食品の端材を食べさせるなど循環型が商品価値を高める。国内飼料が足りず、粗飼料が現在輸入の状況では弱い。そこを改善すれば大きな市場。飼料を手間をかけずに栽培するか米より手のかからないものを栽培する仕掛けをし、それを地元の畜産に流通させ肥料を農業への循環つくりたい。畜産の候補地を求めている。人口減少となり可能性が出てきていると思っている。

ご意見) 地域おこし協力隊の一人は鳥獣対策・林業とのことだが田井地区に1年住んで対策を行うことはできないか。

に関わってもらおうと思っている。

ご意見) 猪にはワイヤーメッシュで対応していたが、根本から猪が侵入するようになり電気牧柵にした。電源として電池を8本、車のバッテリーを使う。電池は雨の日に通電が弱くなり、草が伸びて当たただけでも通電が弱くなる。そこへ猪が学習して入り込んでしまう。最近では6,000~7,000ボルト流すように工夫しており6,000ボルト以上にしたら猪が来なくなった。また3本線が必要、しかし最近鹿が来るようになり3本を張っても侵入されている。鹿・猿には2メートルくらいのメッシュを張り上に電気を張ればといわれるが、かなり費用掛かる。駆除をしてほしい。

市長) たちごっこの面があるが、中山間地域研究センターと協力し、鹿は中国山地の方へ返す対策をしようと広域的に取り組んでいるところ。

ご意見) 資料にある農作物鳥獣被害防止対策事業補助金で個人だと33,000円以内、共同133,000円とあるが、ここで言う共同は集落のことか？

市長) ある程度の集団をイメージしている。

ご意見) 山間地区の存続を考える会を入間・波多・民谷・吉田・田井の5地域で活動していたが休会となり久しい。事務費がなく休会となった。情報交換や共通課題に対して一緒に取り組むのは必要だと思っており事務費を多少でも助成して頂くと助かる。各組織でも知恵を絞りたい。

市長) 取り組みを進めることは重要。具体的にどうできるかはお答えできないが、担当に伝えたい。

ご意見) 電気料やガソリン代の値上がりに対して公的支援はあるか？

市長) 物価の高騰を行政が全て何とかはできないがお困りの方に支援をする。少しでも市民の皆さんに支援できる制度を考えている。市民の皆さん全体に通じる支援ができればと思っている。

ご意見) 川に魚が1匹もない。サギ対策も考えてほしい。斐伊川漁協が放流もされているが河川整備により魚が住むところも少なくなりサギ被害が問題である。

市長) サギ被害はなんとかしたい課題、銃で撃つことが難しい。津和野町ではドローンで巣の中へドライアイスを入れ卵が孵化しないようにする対策している。コロニーの対策も必要。ただ、川魚に関してはサギよりカワウ。カワウに関しては駆除もしているが十分ではない。地域おこし協力隊今年4人受け入れる。来年以降起業型を拡大したい。その中で、有害鳥獣対策について対策を検討したい。

ご意見) 地域おこし協力隊員は地域自主組織で受け入れるのもよいのか。

市長) 条件が整えば可能と考える。